



京都工業会 ニュース

基本理念 -21世紀を担うモノづくり集団-
京都からモノづくりイノベーション

2026 No.425

2026年 新年ご挨拶 2~6

会長	村尾修
副会長	武田一平
副会長	上田輝久
副会長	山田義仁
副会長	廣江敏朗
副会長	西村陽
副会長	瀬川晋弘
副会長	材木正己



会員企業トップにインタビュー 〈43〉(株)クロスエフェクト 7 ～「軟質実物大3D心臓モデルをデファクトスタンダード（世界標準）に！」～

第43回目は、「3Dプリンターをベースに独自技術を開発し、様々な試作を顧客ニーズに応じて共同開発する(株)クロスエフェクトの竹田正俊代表取締役役にお話を伺いました。

◀代表取締役 竹田 正俊 氏

事業活動報告

白鷺クラブ広島県産業視察.....	8
経理問題懇話会.....	9
監査部門懇話会.....	9
京都工業クラブ.....	9
■「アフリカ経済情勢と日本企業のビジネス動向」	
■「自動車産業の最新動向と中小製造業への影響」	
■「2026年の経済見通し ～地政学リスクと産業構造変革をもたらす新局面～」	
脱炭素に向けた取組支援セミナー.....	10
環境人材育成講座.....	10
産学連携によるイノベーション推進講座 2025... ..	10
PFASセミナー	11
DX推進研究会 (旧IoT事例見学会)	12
R&D問題懇話会 1 泊視察	12
研究会活動報告.....	15

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その①

コニシセイコー(株)..... 14~15

令和6年度会員意見調査によると、『当面の経営課題』として多くの企業が「人材不足への対応」を挙げられました。今回も引き続き、社員の確保と定着に欠かせない要素の一つである“魅力ある職場づくり”をテーマに取り上げ、ご紹介します。

事業の予告

障がい者雇用促進セミナー.....	13
BCP・危機管理研究会.....	13
中堅・中小企業のための人事評価制度導入・運用 支援セミナー.....	13
モノづくりフォーラム2026 ～ 医工連携 プロローグ ～	13

新入会員ご紹介.....	16
ゴルフ同好会 (KIG) だより.....	16
計 報.....	16



2026年 年 頭 所 感

会長 村尾 修

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は京都工業会の運営に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年も、国内外で大きな変化が続いた一年でした。世界情勢に目を向ければ、依然として地政学リスクが高まりを見せ、エネルギー・資源価格の不安定さ、インフレ圧力の継続など、企業活動にとって予断を許さない状況が続きました。サプライチェーンの再構築や生産体制のベストプラクティスが求められる中、多くの企業が経営資源の再配分や事業構造改革を進められたことと拝察しております。

一方で、生成AIの高度化やデジタル技術の急速な進展により、産業界には新たなチャンスも生まれています。とりわけ京都企業においては、独自技術を活かした高付加価値化、スタートアップとの協業による革新的な取組など、未来を見据えた挑戦が着実に進みつつあります。また、カーボンニュートラル実現に向けた取組も、研究開発から本格的な社会実装が待たれる局面に來ていると感じています。

2025年には大阪・関西万博が開幕し、関西全体が未来社会の実験場として国内外から注目を集めました。会員企業の皆さまには、多方面でのご支援・ご参加を賜り、関西の魅力を発信するうえで大きな力となりました。万博を契機として、産業振興、人材育成、観光・文化の発信強化など、地域に新たな活力がもたらされたことは、今後の大きな財産になると確信しております。

さて、2026年の干支は「丙午（ひのえ・うま）」です。「丙（ひのえ）」は陽の気が大きく伸び、物事が明るく姿を現すことを象徴し、「午（うま）」は成熟と勢いの高まりを表すとされています。この組み合わせは“これまでの努力が形となり、さらに次の飛躍へ向かう年”と解釈されます。まさに不透明な環境の中でも、挑戦を続けてきた成果が結実し、新たな成長への転換点を迎える年になることを期待したいと思います。

京都工業会といたしましても、この節目の年を、さらなる挑戦のスタートと位置づけています。会員企業の課題解決を支援するため、産学官連携を活用した技術交流、次世代を担う若手・女性人材の育成支援、多様性を尊重したネットワークづくりなど、活力ある産業地域の形成に向けた施策をより一層推進してまいります。特に、カーボンニュートラルやDX推進に向けた共創の場を広げることで、企業同士が互いに学び合い、新たな価値を創出する好循環を築いていきたいと考えております。

また、地域経済を支える企業の皆さまへの支援も、引き続き重要な使命であると認識しています。人材育成、生産性向上、環境対応、海外展開など、多様な課題に対して工業会として伴走型のサポートを強化し、会員の皆さまが「加入して良かった」と実感していただける組織を目指してまいります。

結びに、会員の皆さまのご健勝と会員企業の益々のご隆盛を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 会長



年 頭 所 感

副会長 武田 一平

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、55年ぶりに大阪で万博が開催され、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマに、150を超える国や地域、国際機関が参加しました。当初は集客が心配されましたが、総来場者数は2,900万人を超え、未来社会への関心の高さを示す万博となりました。政界では、高市内閣が発足し、第104代にして初の女性首相が誕生しました。また、26年続いた公明党との自公連立政権に代わり日本維新の会との自維連立政権が樹立し、我が国の政治動向は大きな転換点を迎えています。海外では、2025年1月に誕生したトランプ政権が輸入関税の大幅引き上げを明言し、各国は対応に追われました。世界経済の不確実性が増し、サプライチェーン再構築など事業戦略の見直しを迫られる企業も多くなりました。

さて、当工業会の皆様におかれましては、わが国の歴史と文化の中心地である京都で生まれた多様な伝統技術

をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業し発展させてられました。様々な変化が起こる中で、今後とも互いの強みや知恵を活かし、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開につながればと願っております。

当社は、情報通信分野や自動車分野などあらゆる電子機器に搭載されるアルミ電解コンデンサをはじめ、『カーボンニュートラル』というメガトレンドを支えるEV用急速充電器、V2Hシステム、xEV向けフィルムコンデンサや各種蓄電システムをラインアップし、サステナブルな社会の実現に向けて明るい未来社会づくりに貢献しております。このような企業活動を進める上でも、当工業会の活動方針に沿った産学公の連携をさらに深めていきたいと考えております。引き続き関係各位のご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

京都工業会会員皆様にとって、明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

(ニチコン(株) 会長)



年 頭 所 感

副会長 上田 輝久

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな気持ちで穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2025年は米国で新政権が発足し、新たな関税政策で世界が混乱する中、ドイツ、韓国、日本などでも新政権が発足するなど、大きな変化の年となりました。技術的には、AIが急速に進化した年でもあり、今後は、各種ツールとして使われるだけでなく、人々の生活や仕事、さらには社会を支えるパートナーとしての役割を果たすようになる予測されています。また、AIの広がりによる社会へのマイナス面の影響に関する議論も進んでおり、自然科学と人文社会科学を融合させた新たな人財育成の概念が重要になっています。一方、米国大リーグでの大谷選手や山本選手らの大活躍や、東京2025デフリンピックでの日本選手による史上最多51個のメダルの獲得などのように、多くの人を感動させ、勇気づけた出来事も数多くありました。

2026年の干支は丙午（ひのえうま）で、情熱と勢いが強く、行動力に満ちた年になると予測されています。具体的には、これまでに積み重ねてきた努力が実を結び、新しい挑戦が成功しやすい「開運の年」になる一方で、

予想外の出来事や変化が起こりやすく、柔軟な対応力が求められる年になるとも言われています。また、「動くことで開運する年」とも言われており、気になることには積極的に挑戦することが重要な年です。京都工業会の活動でも、これらのことを意識しながら連携し、果敢に挑戦する年にできればと期待が膨らみます。

京都はユネスコ世界文化遺産や数多くの伝統行事・伝統産業がある一方で、大学や先端産業も集積する「ものづくり都市」でもあります。また、伝統文化・フードテック・ものづくり・伝統工芸など様々な分野で、伝統的な取組と最先端の科学技術を融合させる研究開発が、大学や企業、自治体などによって積極的に推進されています。このような優れた取組を京都から世界に発信すると共に、世界の優れた文化や科学技術とも融合させる取組を進めていくことで、世界から注目され、人々の「共感」を呼び、新たな「共創」を生み出すことが重要です。日本の強みである「感性の豊かさ」を戦略的に強化して、京都ひいては日本の価値を高め、独創的で新たな価値を生み出す年にすること、及び、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株島津製作所 会長)



年 頭 所 感

副会長 山田 義仁

謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員企業の皆さまにおかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は、大阪・関西万博の開催により、世界が関西へ大きな関心を寄せた一年でありました。京都においても歴史文化の魅力が改めて評価され、国内外から多くの来訪者を迎えたことで、地域経済に活気が生まれました。一方で、観光客の急増によるオーバーツーリズムが課題として顕在化し、地域住民の生活環境や観光地の持続可能性をどのように守るかが問われています。また、深刻化する人手不足や原材料・エネルギー価格の高止まり、急速に進展するAI・デジタル技術など、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした変化にどう向き合い、対応していくかが、まさに企業成長の鍵を握る時代となっています。

こうした環境の中で、昨年の京都工業会の活動を振り返りますと、特に印象深かったのは海外産業視察となります。私自身、シチリア島を訪れるのは初めてでしたが、南イタリアの豊かな歴史や文化、そしてその中で育まれてきた産業の成り立ちに触れることで、多くの

気づきを得ることができました。特に、異なる文化的背景や価値観を持つ人々がそれぞれの強みを活かしながら協働し、「多様性を成長力に変える」姿勢は、今後の京都の産業が進むべき方向性を考えるうえでも大きな学びとなりました。

今年は、依然として世界情勢が不透明で、不確実性が一段と高まる一年になることが予想されます。不確実性が高まる今だからこそ、我々京都工業会としても、皆さまとともに社会的課題の解決に向け、京都から世界へ、そして未来へとつながる新たな価値を創出していきたいと考えております。私自身も副会長として、村尾会長の陣頭指揮のもと、地域経済の持続的発展に尽力してまいります。会員企業の皆さまのご理解とご協力こそが活動の力の源であり、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして健やかで実り多い一年となりますことを心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

(オムロン(株) 会長)



年 頭 所 感

副会長 廣江 敏朗

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月に副会長に就任し、活動してまいりました。皆様のご支援に感謝申し上げます。本年も引き続きご支援のほど、よろしくようお願い申し上げます。

さて、昨年はこれまで以上に経営環境が大きく変化した年だったのではないのでしょうか。米国のトランプ大統領就任後の関税方針の変更や、安全保障貿易の重要性の高まり、円安にふれた為替、環境負荷低減方針の見直しなど、経営計画を見直さざるを得ない企業も多かったことと思います。一方で、大阪・関西万博が盛況のなか閉幕し、高市新総理の誕生や、京都大学出身の先生がお二人もノーベル賞を受賞されるなど、関西の底力を示した1年でもありました。

また、生成AIが身近に活用され始めてから1年余りが過ぎ、社会変革が具体的にイメージできた一年となりました。この先、エッジAIによるAI活用が拡がり「どこでもAI」社会の実現が視野に入ってきた年でもあります。企業経営においては、生成AIによる自動化や効率化の取組と同時に、職種や人材に及ぼす影響を意識して、人材ポートフォリオの見直しが課題として認識されはじめた年です。フィジカルAIという言葉も登場し、ロボットやドローンなどの、人を代替する手段にも注目

が集まりました。

「どこでもAI」社会は、全ての機器に半導体が搭載され、AIによる支援を誰もが簡単に受けられる社会が到来するという考え方です。実現には、さらなる半導体の低価格化、省エネルギー化、通信・演算の高速化を達成しなければなりません。こうした課題を解決するための技術革新が求められ、それに伴って新たなサプライチェーンの構築も進むと予想されています。

今後不確実性は一段と高まり、社会の変化を促すことでしょう。技術革新やそれに伴ったサプライチェーンの変革はますます進んでいきます。昨日までの勝ち筋が、急速に力を失うこともあり得ます。

このような大きな変化の中で、私たち製造業は何をしなければならないのかを今一度考えてみたいと思います。

変化に柔軟に対応するためのビジネスモデルは？それを実現する人材は？ポートフォリオはどのように変化させるべきなのか？マネジメントが優先すべきことは？など多方面から検討を重ねることが必要です。当会を通して多角的に学び、各業界の情報を交換し合いながら、未来へのヒントを得ていきたいと考えています。

皆さんと、共に未来に向かって進んでいきましょう。

(株SCREENホールディングス 会長)



年 頭 所 感

副会長 西村 陽

新年明けましておめでとうございます。2026年の新春を迎え、会員の皆様におかれましては、希望と決意を胸に新たな一步を踏み出されたことと拝察いたします。

昨年は、円安の継続に加えて、米中間の貿易摩擦、ウクライナや中東の紛争などの地政学的リスクの高まりが続き、こうした不確実性がインフレや金利上昇など経済の不安定化を加速させた一年でした。このような不透明な時代に求められるのは、外部環境の変化を的確に捉え、迅速かつ柔軟に対応する実行力です。同時に、デジタル活用による生産性向上や多様な人材の確保・育成、事業承継の計画的推進など、企業としての持続的成長を支える基盤を着実に強化していく姿勢が一層求められていると感じます。

また、社会全体でガバナンスやリスク管理の重要性が一段と認識された年でもありました。透明性や説明責任への社会的要請が高まるなかで、企業の信頼性が問われる場面も増えています。私たち企業は、内部の仕組みを継続的に点検し、潜在リスクを未然に防ぐ体制づくりを進めるとともに、風通しの良い職場環境を整え、社員一人ひとりの誠実さと主体性がいきいきと発揮される企業

文化を育むことが重要です。

京都は、長い歴史の中で培われた技術や文化に加え、先端産業が集積する「知と技の都」としての強みを持っています。GX・DX、半導体、医工連携、ロボティクス、環境エネルギーなど、多くの成長分野で新たなビジネス機会が広がる今こそ、地域のものづくり企業がその力を発揮できる時期でもあります。

京都工業会では、京都のものづくり産業の振興、将来を担う人材育成、関係団体との連携による地域経済の発展を目的に、さまざまな活動が展開されています。これらの取組がより大きな成果につながるよう、私も微力ながらお役に立ちたいと考えております。会員企業同士の交流・連携、新たな価値創造を生み出す機会づくりなど、京都ならではの強みを生かした活動が、地域全体の産業競争力向上につながることを期待しています。

結びになりますが、2026年が会員の皆様にとりまして、安全で充実した、飛躍の一年となりますよう心より祈念申し上げます。併せて、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(日新電機㈱ 社長)



年 頭 所 感

副会長 瀬川 晋弘

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと4月から大阪で万博が始まり2,558万人の一般来場者が訪れ関西経済を活気付け、また、政府による積極外交も行われました。万博のレガシーとして空飛ぶクルマが27年に商用化されそうです。

トランプ大統領の2期目がスタートし、関税問題についてはその発言が世界中を混乱に招きました。7月によりやく自動車関税と相互関税をともに15%に下げることになりました。多岐に渡る輸出製造業の業績に影響し、特に自動車メーカーには大きな負担となり、生産性向上、コストダウンによる関税分の吸収や米国への生産場所の移管等の対策を講じる必要に迫られました。

日本人の人口の減少数が初めて90万人を超え減少数、減少率共最大となりました。東京都を除く46道府県で減り、深刻な少子化を反映し対策が急がれます。

最低賃金が過去最大の上げ幅となり、全国で千円を超えました。賃上げの継続のためには更なる生産性の向上

が求められる中、すさまじいスピードで発達している生成AIなどを駆使し業務の効率UPを図る必要があります。

スポーツ界に目を向けますと大相撲はウクライナ出身の力士が21歳の若さで初優勝、史上最速で大関昇進を決め大いに盛り上がりました。祖国が早く安心して行き来できるような平和な国になることを願うばかりです。

2026年令和8年は丙午の年です。「丙午(ひのえうま)」とは、十干の「丙(ひのえ)」と十二支の「午(うま)」が組み合わさった年のことを指し、「丙」は火の性質を持ち、陽のエネルギーを象徴しています。燃え盛る炎のように、明るく、力強く、行動的な意味を持っています。一方、「午」もまた火の性質に属するため、「丙午」は「火と火」が重なった、非常にエネルギッシュな組み合わせです。つまり丙午の年は、「情熱」「エネルギー」「行動力」「改革」がキーワードとなり、新しいことを始めるには最適の年とされますが、その分、勢いが強く出すぎてトラブルや衝突も起こりやすいともいわれています。「京都工業会」会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

(旭光精工㈱ 社長)



年 頭 所 感

副会長 材木 正己

新年あけましておめでとうございます。
会員企業の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

今年の主なトピックスを挙げますと、
(1) 大阪・関西万博の開幕
(2) 日本銀行の追加利上げ
(3) 高市内閣の発足
(4) 少子化の深刻化
(5) 米価の高騰と備蓄米の放出、そして、もう一つ追加し、熊による被害の増加です。

まさに「成長と鈍化」が交錯した一年でした。
万博については、開幕前には予算超過や建設遅延などネガティブな評価が先行しました。しかし、京都工業会を含む関西の政財界の団結により、逆転成功を遂げたと考えます。来場者の口コミやSNSでの発信により集客が加速し、更にトラブル時における現場からの情報発信と迅速な対応は、万博の評価をポジティブなものへと一変させたと言えるでしょう。万博はそのテーマの文字とお「未来社会のデザイン」を創造するイベントとなりました。

また、米価の高騰や熊の出没による人身被害など、身近なリスクは私たちの生活と自然環境の関係を改めて見つめ直す契機となりました。食料安全保障の脆弱性は、

国内生産の維持と備蓄体制の課題を浮き彫りにしました。熊の出没増加は、人口減少・過疎化が進む中で、山林資源と人間活動の境界が曖昧になった結果です。

危機管理は単なる防御ではなく、地域社会と自然環境の調和を前提とした持続可能な仕組みづくりであるべきです。生態系を守りつつ社会と経済を調和させることが、地方創生と産業発展の鍵になります。

さて、2025年は「成長と鈍化」の年でしたが、2026年は「挑戦と共生」を推進します。

挑戦とは、AIやDXなどの技術革新を恐れず取り入れ、産業構造の変化に対応することです。共生とは、自然環境や地域社会と調和しながら持続可能な産業基盤を築くことです。

京都は伝統産業と先端技術が共存する地域であり、地方創生と工業の融合を進める絶好の舞台です。本年は、カーボンニュートラルの推進と人材不足への対応を一層重要課題とし、若手人材の育成と魅力ある産業づくりに知恵を絞り、会員企業の皆様とともに未来を切り拓いてまいります。

結びに、会員企業の一層のご発展と、皆様のご健勝・ご多幸を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

(日東精工(株) 会長)

事業承継のご相談は…

京都銀行へ

京都銀行では、後継者へのスムーズな承継方法について最適なプランをご提案いたします。事業者さまそれぞれの課題に応じた資本戦略の立案・実行を全力でサポートいたします。

グループ各社と連携してご支援いたします

株式会社京都総研コンサルティング
京都キャピタルパートナーズ株式会社
京都M&A アドバイザリー株式会社

京都フィナンシャルグループ
京都銀行

京都中央信用金庫は**総合力と専門性**であらゆる**ビジネスシーン**をサポートしてまいります。

- 創業・ベンチャー支援
- 事業承継・M&A
- ビジネスマッチング
- 海外ビジネスサポート
- 補助金・助成金
- サステナビリティ経営サポート

HPはこちら▼

京都中央信用金庫
www.chushin.co.jp

■会員企業トップにインタビュー〈43〉

「軟質実物大3D心臓モデルをデファクトスタンダード（世界標準）に！」

株式会社クロスエフェクト プロフィール
 創業：2000年 設立：2001年
 資本金：1,000万円 社員：40人
 住所：京都市伏見区南寝小屋町56番地
 業種：プロダクトデザインからの開発試作品製造及び臓器シミュレーター開発

株式会社クロスエフェクト

代表取締役 竹田 正俊氏

3Dプリンターをベースに独自技術を開発し、様々な試作を顧客ニーズに応じて共同開発する株式会社クロスエフェクトの竹田正俊社長にお話を伺いました。

—起業の経緯

私の父は若い頃に創業し、町工場を経営していました。私が事業を継ぐことも可能でしたが、「自分の会社を創りたい」という強い思いが、起業の原動力になりました。



きっかけは、私が26歳の頃、現在でいう3Dプリンターの原型となる機械を父から教えてもらったことです。初めて目にしたときは腰が抜けるほど驚き、「これだ」と思いました。

—創業後の事業

当時、3Dプリンターは珍しい技術であったため、多くの試作案件を受注できました。しかし、試作は基本的に一度きりであるため、継続的に受注を得なければ事業が安定しないという課題もありました。

その頃、「京都試作ネット」発足の記事を目にし、すぐに主宰者である(株)最上インクスの鈴木三朗氏に会いに行きました。この出会いを通じて、ピーター・ドラッカーの経営理論を学ぶ機会に恵まれ、様々なビジネスチャンスへと広がっていきました。

心臓モデルの開発を始めたきっかけは、(公財)京都産業21を通じて京都市立医大の医師を紹介してもらったことです。先生の要望があまりにも難しく、最初は断りました。それから4年後、まだ開発企業を探しておられると知り、チャンスだと感じて今度は引き受けました。この案件が、当社の主力製品である心臓モデルへと繋がっていきました。

—加工の最上流を目指して

創業時の当社は、お客様から受け取った図面やデータを、そのまま具現化する「加工屋」としての役割が中心で、付加価値を生み出しにくく、価格競争に巻き込まれやすいという課題がありました。そこで「付加価値を創出できる上流へ進むべきだ」と考え、企業ドメインを“加工領域の最上流である開発現場”と決めました。開発工程の総合支援サービス企業として、ゲストエンジニアとして開発会議に参加するなど、初期段階から関われるよ

う、技術力の研鑽に力を注いでいます。

—時間提供業

3Dプリンターの最大の強みは「時間の短縮」です。お客様の開発工程の時間短縮こそが当社の存在価値であると創業時から定義してきました。そのためには当社自身のモノづくりのスピードを上げる必要があると考え、独自の「C-MAX (Cost Management of Xeffect)」システムを構築しました。これは製造スピードと損益が連動して分かる仕組みで、早く作れば利益が増え、失敗を重ねれば利益が減ることが一目で分かり、スピード感覚が自然に養われます。

また、開発工程で求められるのは、時間をかけ完璧な製品を納品することより、むしろ早い段階で共有し、方向性を確認することで大きな問題は避けられると考えています。そのため当社では、完成度の高い試作品製作よりも、一日でも早い段階でお客様にご確認いただく体制をとっています。

—新社屋

現在の本社工場は10年前に竣工しましたが、その計画段階で、フランス人デザイナーの社員から「工場らしい建物にしないでほしい」「創造性の湧く空間にしてほしい」と強い要望がありました。社屋中央の大きな吹き抜けやカフェテリア、さらには滑り台まで設置してほしいという意見もあり、最初は大胆だなと感じましたが、「モノづくりにも“遊び (クリエイティビティ)”が絶対に必要だ」という社員の考えに納得し、これらの考えを採用しました。無駄に見える空間にも意味があり、結果として「建てて本当に良かった」と感じています。新社屋開設後、リードタイムの短縮を通じてクリエイティブな時間を創り出せる社風が広まる中で、当社への就職志望者も多く集まるようになりました。

—抱負

当社が開発した心臓モデルは、昨年6月に保険収載に至りました。世界初で前例のない取り組みであり、構想から16年という長い年月を要しました。まず「軟質実物大3D心臓モデル（製品名:MedipreX[®]）」でクラスII（管理医療機器）の承認を得るまでに14年、そこから保険適用されるまでさらに2年かかりました。この製品こそ当社のキラーコンテンツであり、柔らかい臓器の内部まで正確に再現できる技術は当社独自のものです。今後は、この技術を世界のデファクトスタンダードに育てることが、私に与えられた次の使命であると考えています。

白鷺クラブ 広島県産業視察

11月例会（第576回）は、11月6日（木）から7日（金）にかけて、鳶の会と合同で開催した。メンバー企業の取引先、関係先を中心に4社を訪問。参加者同士の交流を深めるとともに、今後の経営に活かせる有意義な視察となった。（参加者16名）

■日本ホイスト株式会社（福山市）

創業：1950年1月 資本金：6億円 従業員数：501名
事業概要：クレーン、巻上機、同部品、周辺機器製造

同社溝上社長から会社概要の説明を受けた後、本社工場を見学した。その際、溝上社長をはじめ、営業統括本部、製造統括本部の5名で対応いただき、



（日本ホイスト）

各スポット毎にて詳細な説明を受けた。同社がホイストおよびクレーン専門メーカーとして国内唯一の営業拠点網を有し、100kg～200tの幅広い製品を月産でホイスト500台、クレーン300基規模で製造する体制が紹介された。品質と安全性を支える一貫生産、IoT対応クレーン等による最新技術、全国9工場体制による供給力が強みとして示された。工場見学では、大型加工設備、試験塔、ロボット溶接など高度な生産技術を視察し、機能性の高い特殊クレーンも見学することができた。

■常石造船株式会社（福山市）

創業：1917年7月 資本金：1億円 従業員数：901名
事業概要：船舶の建造、修繕

広大な敷地に展開する造船現場をバスにて移動しながら視察した。同社は海岸線に沿って約4kmにわたり、新造船工場および修繕工場を配置し、ばら積み貨物船やアフラマックス級タンカー（8万トンから12万トンの積載重量を持つ石油タンカー）などの大型船舶を手掛けている。

まず、新造船工場にてスリップウェイ方式による進水の仕組みを説明を受けた。実際の現場を見ると船体が自重により海へ滑り降りることがイメージでき、迫力ある建造工程について理解を深めた。船体は複数のブロックに分割して製造され、100～250トン級のブロックを自走台車により工場間で輸送、400トン級ジブクレーンを用いて船台・ドックで組み上げる工程が紹介された。また、ショットブラスト処理及び塗装作業による錆対策の重要性や、船内居住区まで自社一貫製作する体制など、品質確保と生産効率化への取組が示された。造船産業の壮大さと技術力の高さを実感する貴重な機会となった。

■岡本工機株式会社（福山市）

設立：1975年5月

資本金：3億2,200万円 従業員数：332名 事業概要：超音波歯車研削加工という独自技術による歯車と歯車装置、工作機械と関連する装置の開発・製造・販売

本社工場を訪問し、菊池社長から会社概要の説明をいただいた後、工場見学を実施した。同社は岡本工作機械製作所グループにおいて唯一、歯車製造を担う中核企業であり、福山・尾道・府中に生産拠点をもち、材料受入れから旋削、歯切り、熱処理、研磨、検査までの一貫生産体制を確立している。特に産業用ロボット向け傘歯車では国内トップシェアを誇り、ファナック社向けを中心に高い信頼を得ている。

また、歯車製造のみならず、加工治具や歯切り盤などの専用工作機械まで自社開発・製造する高度な技術力が強みである。超音波エネルギー加工により、歯面の振動・騒音を大幅に低減し高回転化を実現した日本唯一の独自技術について紹介された。

続く工場見学では、高効率なロボット自動化ラインや各種検査設備など、品質と生産性を追求したものづくり現場を見学し、最新の歯車加工技術への理解を深めた。

■マツダ株式会社及びミュージアム見学（広島市）

創業：1920年1月 資本金：2,840億円

従業員数：23,391名

同社の宇品工場およびマツダミュージアムの視察を行った。まず、会社概要の説明ののち、金型交換を含む高効率な生産ラインと迫力ある大型プレス工程を視察した。その後、ツーリング工程にて、マツダ車製造の思いを具現化する高精度金型技術や段取り替えの迅速化に関する取組を見学、詳細な説明を受けた。



（マツダツーリング制作部）



（マツダミュージアム）

午後からはマツダミュージアムを見学し、同社独自の「魂動（こどう）デザイン」やSKYACTIV技術の思想、ヘリテージ車両から最新モデルまでの技術革新の歴史に触れることができた。参加者からは「車を製造する上でのデザインに対する現場の誇りを強く感じた」「段取り替え10分は日本のモノづくりの頂点の一つ」など高い評価の意見が多く寄せられ、極めて有意義な視察となった。

監査部門懇話会

8/7

個別監査においては、①監査実施前の現状理解（傾向やリスクの把握）、②リスクベースのサンプリング、③準拠性の確認（精査）などを目的として、既にデータ利活用が行なわれていることから、この度、新たに「データ監査」について学んだ。

≪データ利活用を前提とした内部監査の手順例≫

- (1) 業務の理解、データ監査の手続策定、データ依頼
 - ①業務の理解（業務・リスク認識、不正・不祥事ケース等）
 - ②監査対象リスクの特定
 - ③データ監査シナリオ（案）の作成
 - ④データ依頼リストの送付
 - (2) データの確認、分析シナリオの確定
 - ①受領データの確認
 - ②受領データおよび業務ヒアリングに基づく、分析シナリオの確定
 - (3) データ分析の設計・実行
 - ①データの下処理、分析手続の実施
 - ②分析結果のフォローアップ内容の特定
 - ③追加ヒアリングや資料依頼の送付
 - (4) 監査手続きへの適用とフォローアップ
 - ①フォローアップ・追加調査の実施
 - (5) 分析結果の報告
 - ①フォローアップに基づき、データ監査報告書の作成
- 出典：「KPMGコンサルティング(株)」講演資料

経理問題懇話会

8/19

生成AIを業務で利用又は利用予定の企業が海外では90%、国内でも69%に達することから新規テーマである「経理財務における生成AIの活用」について学んだ。

≪各社の経理財務領域での生成AIの活用事例≫

- ①文書の作成・翻訳（文章の要約、多言語翻訳など）
- ②処理の自動化（請求書の自動照合、入金消込など）
- ③対話形式の情報検索（問い合わせ対応、ナレッジ検索など）

≪経理DXに向けた基本的なアプローチの方向≫

- ①構想策定…経理業務改革の目的およびその実現像を明確にし、現状の課題と対応方針を検討
- ②計画策定…各施策の実行に向けた計画の具体化
- ③デザイン・構築…施策の実現に向けたルールや業務の具体化及びシステムの構築
- ④業務適用…業務改革やシステム導入による新業務の適用を実施
- ⑤運用・モニタリング…業務運用の整備と新業務による効果のモニタリング

出典：「有限責任あずさ監査法人」講演資料

第702回 京都工業クラブ

10/24

「アフリカ経済情勢と日本企業のビジネス動向」

(独)日本貿易振興機構(ジェトロ) 調査部
中東アフリカ課長 内田 政義 氏

アフリカの人口は2050年に25億人に達し、世界人口の4分の1を占めると予測される。特に若年層の増加と都市化により消費市場が急拡大している。また鉱物資源が豊富であるため、各国からの戦略的関心が高まっている。



日系企業においても、現地や輸出における市場の需要増加を見込み、事業拡大を図る方針で、特に製造業の進出意欲が高い。

一方、アフリカは治安不安、政情の不安定さ、インフラの未整備、為替・財政リスクなど様々な課題も抱えている。

アフリカ市場は潜在性とリスクが併存するが、中長期的には重要なビジネスフロンティアと位置づけられる。

第703回 京都工業クラブ

11/17

「自動車産業の最新動向と中小製造業への影響」

名城大学 経営学部 教授・社会連携センター長
総合研究所 自動車部品電動化戦略研究センター長
田中 武憲 氏

現在、最大の論点は米国の自動車関税であり、長期化すればサプライチェーンの中小部品メーカーにもコスト圧力が波及する。また、米国は中国製造業への対抗を強めており、日本も「中国を含む/含まない」場合の二本のサプライチェーンが求められる。



もう一つの論点である電動化では、部品点数の減少や内製化の進展により、中小部品メーカーの二極化が加速する。そのため新たな技術や市場への適応が必要であり、モノづくりの基盤技術と経営体質の強化が不可欠である。

第704回 京都工業クラブ

12/8

「2026年の経済見通し

～地政学リスクと産業構造変革がもたらす新局面～」

(株)日本総合研究所調査部 調査部長
チーフエコノミスト 石川 智久 氏

世界経済はトランプ関税により成長率の低下が懸念されたが、AI投資や政策対応が下支えし、今後も3%前後の成長が見込まれる。



米国はAI投資と利下げ効果も相まって、2026年以降に本格回復が予測される。

一方、中国は人口減少、過剰投資等により減速が顕著であり、アジアも米国関税の本格的な影響などにより、2026年は減速する見通しである。

日本経済は設備投資などの国内需要により緩やかな回復が続く見通しである。ただし、今後は供給力強化（投資・外国人労働者政策など）に向けた施策が必要で、長期的な経済戦略が求められる。

脱炭素に向けた取組支援セミナー

10/27

近年の世界的な気候変動により、気温の上昇、熱中症、ゲリラ豪雨、干ばつ、生物の生息域の変化や消失など、私たちの生活にも影響が出ている。

脱炭素社会への移行は大企業だけではなくサプライチェーン全体で取り組む必要があることから、特に中小企業向けに本セミナーを開催した。

参加者：46名

講演1 「取引先の選定基準が変わる今、選ばれる企業とは？－Scope3時代のものづくり経営」

(株)Zevero 代表取締役 谷内 樹生 氏

「サステナビリティ」という世界基準で企業が選ばれる時代となり、日本の製造業においても脱炭素化を原価管理の一環として取り入れることが求められている。社会との共生や企業文化を強化し、日本の強みである「現場力」を「発信力」に変える必要があると力説された。

先進的な取組事例として、米Apple（2030年までに全サプライヤーの再エネ100%）、英DEYA（製品カーボンフットプリントを測定して売上2倍以上増加）、佐渡島・尾畑酒造（廃校活用など地域社会との共生の実践を通じた世界的認証「B-Corp*」取得）が紹介された。

*米国の非営利団体B Labが運営する認証制度。

講演2 「空気圧利用設備におけるCO₂排出量削減」

SMC(株) 京都営業所 坂本 雅人 氏

空気は無料のエネルギー源であるが、「圧縮空気」は無料ではない。製造現場における空気圧利用設備の省エネルギー化は、環境負荷低減とコスト削減につながる。取組の第一歩は空気消費量の実態把握、PDCAサイクルを用いて継続的に行うことが重要である。

6つの着眼点（ヤメル、トメル、サゲル、ナオス、カエル、ヒロウ）で低リスク・低コストの課題から省エネ活動に取り組むことで、コンプレッサの電力を20～50%削減できる。

講演3 「給排気バランス改善による快適性と省エネ性の向上」

ダイキン工業(株) 空調生産本部 原 宗一郎 氏

堺製作所の臨海1号工場（平成30年稼働）は、令和元年の台風被害で室内が外気温と同じになり快適性が低下した。原因は給気設備の故障により工場が負圧状態になったためである。

この出来事が「給排気バランスの見直し」による工場の快適性を改善できるとの着想に繋がり、老朽化が進み空調が効かない臨海2号工場（平成2年稼働）の環境改善に適用。地道に工場空調熱負荷の現状を把握し、必要な設備導入と運用改善により快適性に加え省エネ性向上の実現につながった。

新規事業

環境人材育成講座

12/1

モノづくり企業における環境関連業務は、ESG経営に関わる環境配慮への対応から、大気、水質、廃棄物、エネルギーなどの環境管理と非常に幅が広く、中長期的な人材育成が各社共通の課題である。本講座はモノづくり企業における環境問題に対応できる人材の育成を目的として、年間全7回を概ね月1回ペースで開催。

第6回概要報告

講師：天野 輝芳 氏 京都大学博士（地球環境学）

一般社団法人 京都府産業廃棄物3R支援センター

参加者：13名

サーキュラーエコノミーの歴史・概念、欧州・日本の政策動向、国際標準化、企業・技術事例、実務ツール（MFCA）について解説があった。

講義後はグループ討論を実施。所属企業における廃棄物処理の現状を参加者自身が説明、各社の課題の共有とその解決策について話し合った。各社共通課題の廃プラスチック分別に対して、リサイクル会社とコラボした分別回収のソリューションが講師から示され、サーキュラーエコノミーへの理解を深めた。

本講座の今後の予定

回	日時	内容
7	令和8年 1/27（火） 14：00～16：30	ネイチャーポジティブ ・ビジネスとの接点 ・企業参加の森づくりの意義 など

産学連携によるイノベーション推進講座2025

11/6

「新規事業領域に挑戦する

～「人にやさしい技術」を共創し社会を健康にする～」

参加：70名

講演：人と技術をつなぎ、未来をひらく

～ ライフサイエンス領域への挑戦 ～

(株)SCREENホールディングス

上席執行役員 LS事業担当 上志 正博 氏

モノづくり企業において、新規事業創出は重要な経営課題である。オープンイノベーションを推進し新規領域への取組がなされているものの、事業化に繋げるには高い障壁に阻まれる。

今回は、コア技術の深堀りとオープンイノベーションを積極的に活用し「社会を健康にする」ことを目指し、ライフサイエンス分野に挑戦している(株)SCREENホールディングスの上志氏を招いて、これまでの取組と未来への強い思いを講演いただいた。

新規事業の必要性に始まり、新規顧客開拓への注力、産学連携を含む仲間づくりによって得られる成果、さらに情熱と矜持を持った旗振り役の重要性などが紹介され、多くの参加者から共感と称賛が寄せられた。

新規事業

PFASセミナー

11/18

PFAS*（ピーファス：有機フッ素化合物）は、優れた特性を複数有し、長年、多くの産業で活用されてきたが、自然環境の中では分解されにくい物質も含まれている。

近年、環境保全への関心が高まり、世界的に規制強化が検討されてきている中、モノづくりの中堅・中小企業に向けた実践に役立つセミナーを開催した。

* Per-fluoroalkyl and Polyfluoroalkyl Substances

参加者：70名

講演1 「PFASとその用途」

ダイキン工業(株) 化学事業部 清水 義喜 氏

PFASは「炭素に複数のフッ素原子が結合した化合物」の総称で1万種類以上存在。一部は自然環境の中で分解されず、人体に残留しやすいことから「永遠の化学物質」と呼ばれる。用途に応じて多彩な形態に加工され、耐熱性や耐薬品性などの複数の優れた性能を同時に備え、ほぼ全産業に不可欠な先端材料である。

一部の特定PFASは環境残留性の問題から規制対象となっており、代替技術・製品開発が今後の大きなテーマである。並行して、フロン冷媒のように、使用後の回収・再生利用が進む中、フッ素資源確保に向けた資源循環の動きも加速している。

講演2 「欧米のPFAS規制動向」

(株)SCREENホールディングス 寺田 喜則 氏

化学物質を安全管理する国際的枠組が1990年代に拡大したことを背景に、2004年発効のストックホルム条約(POPs条約)で特定PFASが廃絶・制限対象となった。

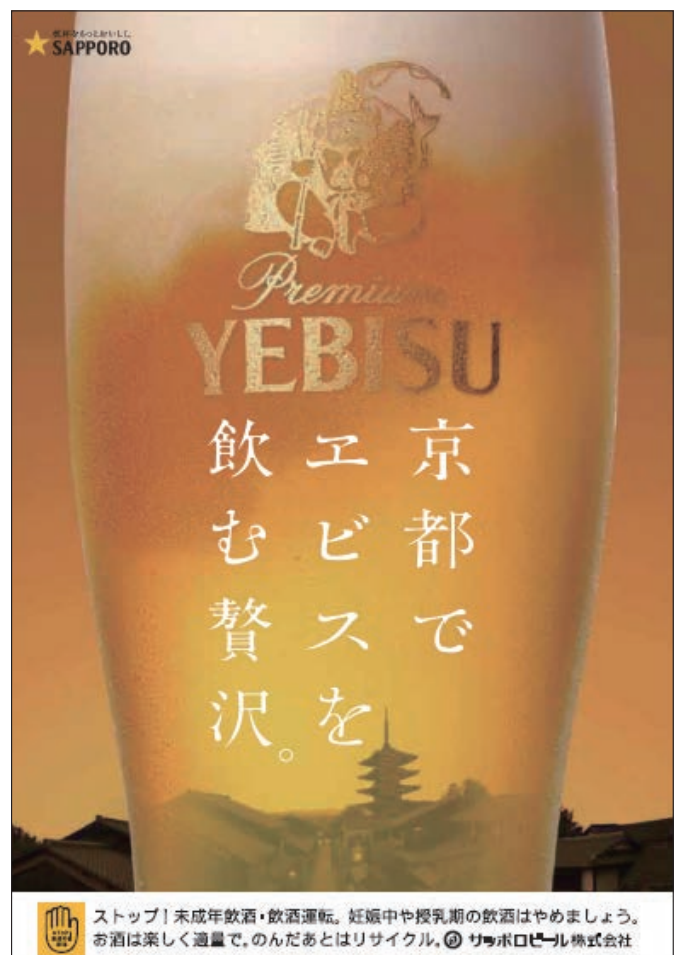
EU・米国・日本・台湾などで法規制が進展する中、先行するEUや米国では1万種類以上のPFASを「グループ化」して一括規制する動きが強まっている。日本では化審法に基づき、POPs条約で対象となったPFASが「第一種特定化学物質」に次々と指定(製造や輸入が原則禁止)されている。PFASを使用する企業には、代替品の検討、含有情報の把握、サプライチェーン対応、排出削減・管理、規制動向の継続監視が求められる。

講演3 「製造業への影響とその対応」

(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ 山谷 智亜子 氏

半導体製造装置におけるPFASは、薬液・純水・ガスの接液部・接ガス部(バルブ、ポンプ、継手、チューブ、パッキンなど)の重要部品に使用されている。しかし、耐薬品性、クリーン度維持、柔軟性と耐熱性の両立などの理由により代替が困難である。現時点でPFAS使用量を「ゼロ」にすることは不可能とされているため、SCREENグループではリサイクルによるPFASピュア材の使用量削減に取り組んでいる。また、PFASを含む規制物質の順守確認にchemSHERPA*を活用している。

*化学物質情報をサプライチェーン全体で効率的に伝達・管理するための共通スキーム、経済産業省が主導



DX推進研究会 (旧IoT事例見学会)

10/21~

近年、経営改革の打ち手としてDX（デジタル・トランスフォーメーション）が注目されている。

とりわけ製造業では、工場の可視化による生産進捗の管理や収集したデータを活用した不具合対策等、IoTがその根幹を支えている。

今年度DX推進研究会は、「先進企業等のDX時代のIoTのあり方を研究する。」をテーマに、10月21日からスタートした。

第1回例会（10/21）

昭和47年の創業以来、静電容量型液面レベルセンサー、静電容量型液面レベルスイッチ、フラット型近接センサー等を手掛ける亀岡電子(株)を訪問。

令和3年からデジタル化への取組として展開されている生産フローの見える化（検査工程データの見える化）や協働ロボットを活用したアシストオートメーション化の事例を見学した。

第2回例会（11/17）

オムロン(株)草津事業所を訪問。

同社の価値創造コンセプト「i-Automation」に基づくビッグデータ解析を活用したビジュアルライン化（人と設備の要因から見える化）による不具合ロス及び傾向ロスの解析、モバイルロボットを活用した運搬作業における人的負担の軽減等の事例を見学した。

なお、本研究会では、次回以降も(株)工進や大塚製薬(株)徳島工場（オンライン訪問）を、順次訪問する。

R&D問題懇話会 1泊視察

11/13~14

当懇話会では恒例となっている1泊視察を14名が参加し、愛知県内の企業他を訪ねた。

1日目（11/13） 大同特殊鋼(株)技術開発研究所を訪問。

同社は大正5年の創業以来、フロンティアスピリットを貫きながら、技術開発研究所を中心に、多くの新素材・新技術開発に取り組み成果をあげている。

その中でも今回は、「2025愛知環境賞」で金賞を受賞された事例を学んだ。エネルギー多消費型の鉄鋼業において、同社が蓄積してきた炉体旋回式電気炉での均一の溶解や高効率燃焼システムなど、他産業への波及が評価された技術を見学した。

2日目（11/14）午前 (株)エノアを訪問。

燃料電池評価装置の開発に加え、再エネ水素蓄電システムでの水素全般で事業を展開。現在推進中の「壱岐島で取り組むRE水素システム実証試験事業」の取組事例に学んだ。

同日午後 あいち科学技術総合センター訪問。

愛知県における次世代のモノづくりに必要な産業技術と科学技術の発展を総合的に支援するため、平成24年1月に知の拠点の先導的中核施設と旧産業技術研究所を始めとする6技術センターを統合して設立されたもの。その際、新たに大学の研究シーズを企業の事業化・製品化につなげる産・学・行政の共同研究開発の推進の一翼を担うとともに、次世代のモノづくり技術において不可欠で高度な計測機器の整備や試作・評価なども展開しており、それに必要な各種検査機器等を見学した。

訪問先の素晴らしい取組事例に加え、懇話会メンバー間の交流も深まり、充実した1泊研修となった。

京都ビジネス交流フェア2026

京都発・グローバル「モノづくり」戦略展

2026.2.18(水) - 19(木) 10:00 - 17:00

京都パルスプラザ（京都府総合見本市会館）

グローバル「モノづくり」戦略展

牽引する府内企業を特別展示

入場
無料

事前来場登録のお願い

ご来場には公式HPからの「事前来場登録」が必要です。

半導体特別展

（大展示場中央）

フードテック特別展

（第1展示場）

B to B に特化した京都最大級の展示商談会

グローバル市場を勝ち抜く京都企業の魅力を発信（出展201社24団体）

● ● ● 事業予告 ● ● ●

新規事業

障がい者雇用促進セミナー（中小企業向け）

障害者雇用促進法の改正により、令和8年7月に民間企業の障がい者の法定雇用率が引き上げられる。本セミナーでは、障がい者雇用のノウハウの蓄積が少ない中小企業向けに、障がい者の採用、そして定着へのポイントを実例とともに紹介し、具体的な取組を進めるための情報を提供する。

日時：令和8年2月27日（金）9：30～12：00

会場：京都工業会 会議室（京都経済センター6階）
オンライン併用

対象：中小企業の経営者・人事担当者等

プログラム（予定）：

解説「障がい者雇用対策について」（仮題）

講師：京都労働局

講演1「障害特性の理解～安定した障がい者雇用のために～」（仮題）

講師：京都府立京都障害者高等技術専門校

講演2「先進企業事例紹介」

講師：障がい者雇用に取り組む中小企業（2社）

中堅・中小企業のための
人事評価制度導入・運用支援セミナー

人事評価制度は、「公平性」「社員のモチベーション向上」「企業の持続的成長」「組織成果」等を実現する仕組みとして導入を進める企業が増えているが、中堅・中小企業ではリソース不足やコスト等の制約があり、導入のハードルが高い企業も少なくない。本セミナーでは、人事評価制度を導入・運用する上でのポイントや導入ステップ等を解説し、中堅・中小企業での人事評価制度の導入・運用の支援を行う。

日時：令和8年2月19日（木）9：30～12：00

会場：京都工業会 会議室（京都経済センター6階）
オンライン併用

対象：中堅・中小企業の経営者・人事担当者等

プログラム（予定）：

① 導入編

○人事評価制度の基本概念（評価の目的、評価項目、評価方法）

○中小企業特有の課題（リソース不足、評価の属人化、制度定着の難しさなど）

② 実務編

○評価制度の設計ステップ

・評価基準の設定

・評価シートの作り方

・評価者研修の重要性 など

新規事業

BCP・危機管理研究会

自然災害や事故、地政学的なリスク、サイバー攻撃を受けた際の対処法について、具体的な対応事例を学び、緊急事態に備えるために不可欠であるBCP（事業継続計画）の策定や見直しを通じた企業の持続的な基盤づくりに役立てる。

【第1日】 2月3日（火）13：30～16：30

第1部「モノづくり企業における危機管理対策」

(1) 説明「製造企業における危機と危機管理対策」

講師：京都府 危機管理部 災害対策課

(2) 事例報告

①自然災害（地震、台風） 講師：(株)村田製作所 京セラ(株)

②サイバー攻撃・情報漏洩対策

講師：京都府警サイバー部門

第2部「影響の大きな課題をテーマとしたワークショップ」

【第2日】 2月17日（火）13：30～16：30

第1部「課題を踏まえたBCPの策定・見直し」

(1) 説明「経済安全保障」

講師：京都公安調査事務所

(2) 説明「BCPの概要と策定の実際」

講師 東京海上日動火災保険(株)京都本部

第2部「ワークショップ～BCPの策定・更新～」

ファシリテーター：

東京海上日動火災保険(株)京都本部

モノづくりフォーラム2026
～ 医工連携 プロローグ ～

医療機器分野は安定した成長と、モノづくり企業の実績が活かせる有望な分野だが、製品化に向けて医療側との密接な連携が必須となる。開発に取り組む前に、医工連携の特性や、自社技術を活かせる臨床ニーズの探索などの基礎を学ぶ。

開催日時 令和8年2月6日（金）14：00～16：00

基調講演 医療機器開発の基礎と京都大学医学部附属病院における医療機器開発支援の取組み

講師 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 医療開発部 部長

大学院医学研究科 橋渡し研究推進学分野 教授 永井 純正 氏

事例紹介 最先端3Dデジタル技術が拓く未来の診断～世界市場を見据えた新しい医療機器開発～

講師 (株)クロスエフェクト

代表取締役 竹田 正俊 氏

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その11

職場の魅力向上に努めておられる会員の状況をご紹介します。
第11回はコニシセイコー(株)を訪問して、お話を伺いました。

(取材日：令和7年12月2日)

コニシセイコー株式会社

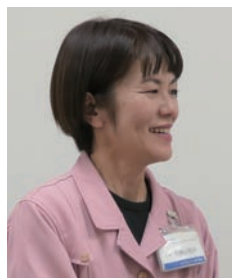
創業：昭和32年（1957年） 資本金：4,500万円
社員：85人 住所：京都府久世郡久御山町野村東161-1

お話を伺った皆様

取締役 小西由佳子 氏
第2製造部パート社員リーダー 神田静香 氏

事業概要

精密部品や医療機器部品の検査・組立を主な事業としています。さらに、大手メーカーから装置一式を預かり、委託企業様と同じラインを構築して稼働させる受託生産も展開しています。部品検査やアッセンブリに加え、工程の一部を「まるごと請負」も行い、とりわけ最終工程にあたる検査業務を多く担っています。また、「超微粒子ミスト美顔器」を開発したほか、自社の製品技術を応用した医療機器、業務用設備等、新たな用途への展開を進めています。



小西由佳子 氏

従業員構成と職場の特徴

従業員は現在85名で内訳は社員13名、パート55名、残りが派遣社員です。男女比は女性が7割を占めています。顕微鏡を使う検査など長時間座って行う精密作業が中心のため、女性が働きやすい傾向があり勤続20年の方も多くいます。モノづくりが好きで手先の器用な方が集まる職場です。経験者優遇ではあるものの、未経験者も多く活躍しています。

人材確保

当社は、従業員の兄弟や家族の紹介が多く、繁忙期には「親が働けます」「兄弟が行けます」といった形で人材が集まります。また、派遣会社を通じて採用したベトナムの方もいます。以前は5～6名が在籍していました。彼女たちは本当に優秀なので、ぜひ戻ってきて欲しいと思っています。

柔軟な勤務時間制度

ももとは2パターンの勤務時間でしたが、現在は大幅に柔軟化。最短では週13.5時間、1日4.5時間程度の勤務も可能で、9時～14時/10時～15時（各休憩有り）な

ど多様なシフトを用意しています。夜間勤務や土日みの勤務者もおり家庭事情に合わせた働き方が可能です。

また、子どもの急な病気などで欠員が出れば他のグループから応援に入るなど、課長同士が毎朝調整し、皆が協力し合って職場を支えています。

小さな子どもがいる方でも働きやすい環境づくりに特に力を入れています。

管理体制とリーダーの役割

課長、係長に加え、パートリーダーが重要な役割を担っています。リーダーは作業指導だけでなく、悩み相談の窓口にもなり、新人の方も安心して働ける環境を整えています。中国籍のパートも在籍しているので、日本語でのコミュニケーションが難しい部分はリーダーがフォローし、勤務後にもLINEで相談に乗るなど、リーダーの存在は職場の支えとなっています。

社員定着のための工夫

「前向きに働き続けてもらう」ことを重視しています。例えば、急に休んだ社員には翌日必ず課長や係長が声をかけるなど、休みづらさを感じさせない環境づくりを意識しています。また、以前は1日単位でしか取得できなかった有給休暇も2年前から半日単位で取得可能にしました。介護など特別な事情がある場合は、時間単位の休暇も認めています。将来的にはフレックスタイム制の導入も検討しています。

朝礼での2分間スピーチ

毎朝の朝礼では、社員が順番に2分間スピーチを行います。社員同士が互に関心を持ち、会話のきっかけになる取組として定着しており、年末には全員投票で「最も良かったスピーチ」を選びます。

印象的なスピーチとしては、ある男性社員が語った「生きているうちにもう一度見たい景色」です。周囲の勧めもあり、実際に家族と長崎を訪れ、その後のスピーチで「行ってきました」と報告があり、社員の行動を後押しするきっかけとなったこともあります。

資格取得のサポート

資格取得に関しては、会社が全面的にサポートしています。現在の業務に直接関係しない資格でも将来必要になるかもしれないと考え、社員本人が希望する資格については回数に関わらず費用を負担しています。

新入会員ご紹介

(12月3日、第352回理事会で承認されました。)

〈正会員〉

会社名	代表者名	所在地 (TEL・FAX)	取扱品目
日本ニューロン(株)	代表取締役 岩本 泰一	〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台3-2-18 TEL.0774-95-3900 FAX.0774-95-3905	伸縮管等の設計、 製造、販売、研究開発

〈賛助会員〉

(株)ECODESIGN LABO	代表取締役 中尾 哲 弥	〒604-8155 京都市中京区錦小路通室町東入古出山町308 ヤマチュウビル TEL.090-3058-5550 FAX. —	コスト削減、人材育 成、採用などの各種 コンサルティング業務
NTTドコモ ビジネスソリューションズ(株) 京都支店	関西支社 京都支店長 結 南 俊 也	〒600-8005 京都市下京区四条通柳馬場 京都フコク生命四条柳馬場ビル TEL.075-241-9321 FAX.075-256-2061	製造現場向けIoT・ AIソリューション、クラ ウド・ネットワーク構築、 サイバーセキュリティ 対策、DXコンサルティ ング
影近設備工業(株)	代表取締役社長 影 近 義 之	〒606-8267 京都市左京区北白川西町83 TEL.075-761-8191 FAX.075-752-1794	建築設備工事業 (給排水衛生防災空 調設備・設計施工)
ティーエムシー(株)	代表取締役 宮 脇 大 士	〒604-8153 京都市中京区烏丸通四条上ル笋町691 りそな京都ビル10階 TEL.075-253-0444 FAX.075-253-0448	レアメタルのリサイ クル、製造、販売



ゴルフ同好会 (KIG) だより

令和7年度第3回例会 (第251回例会) 結果

と き：令和7年11月18日

と ころ：ジャパンエースゴルフ倶楽部

参加者：28名 (内 シニア9名)

優 勝 藤永 清恵氏 (株森川製作所)

準優勝 森本 元気氏 (株MIRAI)

3 位 坂根 順一氏

(大和ハウス工業(株)京都支社)

B G 賞 和田 均氏 (株ワダ)



訃 報

■河本 英典 氏

(綾羽(株) 社長)

11月29日、ご逝去されま
した。(享年77歳)

ここに、会員各位ともに
謹んで哀悼の意を表します。

寄り添う、つなげる

あたたかい金融を目指して

新たな価値の創造を通じて
事業の成長と発展を
サポートします。

創業支援

事業承継

ビジネス
マッチング

海外進出支援

京信について
もっと深く！
もっと詳しく！

よりそう、
つなげる。

READ NOW

京都信用金庫の取組を紹介！
京信のいちおし

ICHIOSHI

京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地
「コミュニティ・バンク京信」は、京都信用金庫のブランドネームです。

京都工業会 ニュース No.425

発行 2026年1月19日
公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉦町78番地
京都経済センター 6階

TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp

